

2010年度 競技上の注意

鹿児島県少年サッカー連盟審判部

1. 本大会は本年度日本サッカー協会競技規則により行う。
2. 競技規則の厳守、フェアプレー第一を基本に考えプレーすること。
3. プレーに関する事実についての主審の決定は最終である。
4. 審判員批判や中傷をしないこと。
5. 時間厳守。キックオフの時間(前後半とも)また、ゲーム中の悪質な時間かせぎをしないこと。
6. ユニホームについて
 - (1) ユニホームは必ず正副2着(シャツ2枚・ショーツ2枚・ストッキング2本)を、試合会場まで持参すること。
 - (2) ゴールキーパーのトラックスーツ(トレパン)の着用については、主審の許可を得ること。裾、ポケット等ファスナーや危険物がついているものは着用しないこと。
 - (3) すね当ては、用具に含まれるので必ず着用し、PK方式になった場合も終了まではずさないこと。
 - (4) ショーツの下にはくインナーズパッツ(アンダーパンツ)は同色の場合に限り、膝関節より上までの長さのものは許されるが、異色の場合はショーツの下からでないことを条件に許される。ゲーム中に出た場合はゲーム進行中에서도出て脱いでもらうことがある。
アンダーシャツについてはH22.10.30の監督会議において以下のように確認した。
 - ・同系色は認める。(洗濯等の色あせは考慮する。)
 - ・ストライプ等のユニフォームに関しては主たる色1色でも認める。
 - (5) ショーツに番号を貼付する場合は、背番号と同番号をつけること。異なった番号を貼付している場合には、反スポーツ的行為として警告されることがあるので注意すること。
7. 選手交代について
 - (1) 交代要員は完全に記入された交代用氏(監督のサインのないものは不可)をもって、第4の審判員席へ行き、用具等の点検・氏名の確認を受けた後、第4の審判員の指示に従って交代すること。なお、退く選手は近くのゴールラインもしくはタッチラインからできるだけ早く退場し、入場する交代要員は、ハーフウェイラインより入場すること。
 - (2) 交代要員は、交代により退く選手がピッチの外に出た後でしかも主審の合図があるまではピッチ内には入れない。
 - (3) 交代は、交代する選手が出て交代要員がピッチ内に入ったときに完了する。したがってその前までであれば交代を延長または中止して退く選手や交代要員の変更は可能である。

8 . ベンチからのコーチングについて

- (1) 試合中のコーチはベンチからのみ許される。
- (2) テクニカル・エリアを設定していない大会では、ベンチより前に出ることは出来ない。
- (3) 判定に対する不服の言動があった場合は退席させられることがある。
- (4) 試合中、役員・監督・引率者および交代要員は必ずベンチに着席すること。
- (5) 退場を命じられた競技者は、ベンチに入れない。

9 . 負傷者の処置について

- (1) ゲーム中に負傷者が出て、主審より担架を入れるかもしくは役員に入るように指示があった場合は、チーム役員2名と担架が同時にピッチ内に入ることが出来る。
- (2) 役員がピッチ内に入る目的は、治療するためでなく、ゲーム続行可能か不可能かの判断をするためである。
- (3) ゴールキーパーの負傷についても同様だが(場外へ搬出)ゴールキーパーが復帰するか、交代が成立するまでは、ゲームは再開されない。

10 . 競技中の飲水について

- (1) 競技中の飲水は、競技の停止中にタッチライン近くと、ゴールの後ろにおいてのみ許される。
- (2) 保冷の効くような固い容器を使用するケースがみられるが、ペットボトルのような柔らかい容器のみ認められる。
容器の中は真水及び小さな氷(冷蔵庫で製氷される2~3cm角程度の大きさの氷)は認められる。

11 . 延長戦について

延長戦がある場合は、延長戦に入る前に3分程度の休息をとる(延長戦ではハーフタイムはとらない)。

12 . PK方式について

PK方式になった場合は、選手はピッチ内から出ることは出来ない。自軍ベンチ前のピッチ内で1分間程度の休息が許され、その時間に飲水及び監督の指示を受ける。

13 . その他

- (1) 飲水タイム：夏場、当日の天候等考慮してとる方向で。(当日本部とレフリーで決定)
- (2) 帯同審判員等の靴について、審判服と同様に黒を基本とした靴が望ましい。